

投稿

《 団 圓 》

《 団 円 》



当我回到日本,生活在一个与周围的人都不相识,语言也不通的环境里。我深深的感受到了孤独和寂寞。但自从从我出所(归国孤儿中心)后来到定居地时,我的兄长们热情地帮我组建了新家。从锅碗瓢盆等日常用品,到床垫冰箱等电器家具,兄长们都帮我一切完备。让我很快就感受到了回家的感觉,也使我更感受到了家人的温暖。

我的四位兄长,分别居住在不同的地方,他们有的在千叶,有的在埼玉。每到元旦的时候,他们都会拖家带口的聚在一起过年。在我来日本前,四个兄长们每年都会轮流着在对方家里过年。当我回来之后,四家就变成了五家。每年一次的大聚会,场面便变得更挺令人震撼了。老老少少的二十多口人聚在一起过年,大家忙忙碌碌的。小辈儿们手里拿着压岁钱,欢天喜地地玩耍着,大人们则是聚在一头做年夜饭。大家忙的忙,玩儿的玩儿。场面很是温馨。

每年的这个时候我都要包饺子。中国的饺子是白菜猪肉馅儿的,日本的则是包菜猪肉馅儿。咱们用的馅儿不同,因此味道也不同。我每年都包中国的饺子,不论是大人小孩,都特别爱吃。所以无论是到哪一家,我都必须得包饺子,带饺子。

日本に帰ってきた頃、周りに知り合いもおらず、言葉も通じない環境で生活していた私は非常に孤独を感じました。しかし、帰国者センターを出て新しい定住地に来た時、兄たちが温かく親切に私の居場所を作ってくれました。鍋やフライパンなどの日用品から、マットレスや冷蔵庫などの大型家電に至るまで、兄たちが何でも揃えてくれました。だから私はすぐに家の温もりを感じる事ができ、家族の愛をより一層強く感じる事が出来ました。

私の4人の兄たちは、それぞれ違う場所に住んでいます。千葉に住んでいる兄もいれば、埼玉に住んでいる兄もいます。お正月になると、一緒に新年を祝うためにみんなが集まります。私が日本に来るまでは、4人の兄が順番にお互いの家で大晦日を過ごしていました。私が帰国すると、四つの家族が五つになりました。年に一度の集まりは私にとって衝撃的な光景でした。老若男女20人以上が集まった大晦日は、慌ただしい一日です。子供たちはお年玉を手を駆け回り、大人たちは一か所に集まり年越し用の夕食を作ります。賑やかでとても居心地のいい光景でした。

毎年大晦日に餃子を作るのは私の役目です。中国の餃子は日本の餃子と違い、具はキャベツと豚肉ではなく白菜と豚肉をつかいます。もちろん味も違います。私は毎年中華餃子を作りますが、飽きられることなく子供にも大人にも大好評です。だから、どの家族の番が回ってきても、私は餃子を作っ

经过一天的忙碌,温馨热闹的聚会很快就到了尾声。大家还没有聊的尽



兴就又要离别了。快乐的时光总是让人难以忘怀。每当我想起家族的聚会,我的心就像泡在温水里头似的,暖洋洋的。我回到日本后,感受到的兄长们都把我看作家人,亲人。也感受到了他们对我的关心和爱护。虽然以前听说日本人的亲情很淡薄。但在我这里呢,只感受到了兄长们的深深的关怀和照顾。

有限光阴过隙,无情日月飞梭。我们都已经步入高龄。行动也越来越不方便了。我的四位兄长已经相继离世了三人。现在只剩我和我二哥还在。曾经的新年聚会也随着我大哥的离世,结束了。

虽然没了新年聚会,但每年我们都会通过电话嘘寒问暖。这几年因为新冠的影响,我们已经连续三年没见了。而今年的盂兰盆节,儿子带着我去了二哥家。让我意料不到的是,他们一家七口大大小小一个都没落下,全都在家翘首等着我。这次我也带着我包饺子的用具和食材,在他们家也包起了饺子,之后全家人都欢畅地忙着吃饺子,唠家常,我很珍惜来自亲人的真心与关怀。这也是我最难忘也最珍惜的东西。所以每当我回想起这个时刻,我都特别感动,心情也无法言表。

(H)

(从茨城县福祉部长寿福祉科交流会报第 2 期《中国归国者》2024.3 转载)

て持っていかなければなりません。

忙しい一日を終え、温かく賑やかな再会^{さいかい}は終わりを告げました。楽しいおしゃべりをする間もなく、私たちに再び別れが訪^{おとず}れます。楽しい時間はいつだって忘れられません。家族の団欒^{だんらん}を思い出すたびに、私の心^{こころ}が温かくなります。日本に帰って感じたのは、兄たちが私を家族、肉親^{にくしん}のように思ってくれているということです。また、彼らの私に対する気配^{きくばい}りや愛情^{あいじょう}も身に染みるほど感じました。日本人は愛情^{うす}が薄いと聞きました。が、私は、兄たちの深い愛情^{きづか}や、気遣い^{きこころくば}いだけを感じました。

太陽と月が替わり、限^{かぎ}られた時間が容赦なく過ぎ去っていきます。私たちは皆、年をとり、高齢^{こうれい}になりつつあります。移動もますます困難^{こんなん}になりました。4 人の兄のうち 3 人が相次^{あいづ}いで他界^{たかい}しました。今、生きているのは私と次兄^{じけい}だけです。かつてあった新年会^{しんねんかい}も、長兄^{ちやうけい}が他界^{たかい}したことによって終わりを告げました。

新年会はなくなりましたが、私たちは毎年お互い^{たが}で電話^{でんわ}で近況^{きんきやう}を尋ねあいます。ここ数年は新型コロナ^{すうねん しんがた}ウイルスの関係^{かんけい}で 3 年連続^{れんぞく}次兄と会っていません。そして、今年のお盆^{ぼんやす}休みに息子^{むすこ}が次兄の家に連れて行ってくれました。予想^{よそう}外^{がい}だったのは、大人に子供、次兄の家族全員^{ぜんいん}が家で待っていてくれたことです。今回、私は餃子の道具^{どうぐ}と材料^{ざいりやう}も持って行き、彼らの家で餃子を作りました。その後、家族全員で餃子^{ぎょう}を食べながら、おしゃべりをしました。私は家族の真心^{まごころ}と気遣い^{たいせつ}を大切にしています。この何気ない瞬間^{しゅんかん}を思い出すたびに、言葉に出来ない思いや感動^{かんどう}がこみ上げてきます。これもまた、私にとって最も^{もっと}思い出^で深く、大切なことです。

(H)

(茨城県福祉部長寿福祉課 交流会報第 2 号『中国帰国者』2024.3 より転載)